

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
情報モラルの推進(教員のICT活用指導力の向上)		全教諭・養護教諭	6H	講義・演習
日程	定員	講師名(所属・職名等)		
平成30年8月23日(木)	55人	伊藤 剛和(奈良教育大学・教授) 小崎 誠二(奈良県立教育研究所・ICT教育係長) 三村 好央(奈良県教育委員会・学校教育課指導主事)		
会場				
奈良教育大学				
【講習の概要】				
「教員のICT活用指導力規準表(JAPET2008策定)」のうち、「情報モラル」を中心に扱い、学校現場と地域・家庭がどのように協力して取り組むか、教科指導に合わせて取り組む内容、ソーシャルメディア・リテラシーのような教師の日頃からの模範となる姿勢などを含め、体系的な指導の進め方を考えます。				
【小テーマ①】情報モラル教育の役割			3.0H	(担当講師:伊藤 剛和)
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	「教育の情報化」に関して、「教育の情報化に関する手引き」などを参考に、どのようなねらいで取り組まれてきているのかを紹介し、これからの初等中等教育における教育の情報化の方向性について理解する。その中で、「情報モラル」の役割や、モデルカリキュラムの紹介、家庭や地域との連携で取り組む意義、体系的な指導の必要性等について取り扱う。演習では、ケータイに関する指導内容をワークショップ形式で検討する。			
到達目標・確認指標	先導的教育情報化推進プログラム「教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化」の具体的目標(基準)より抜粋。これらを確認するために、確認テストやワークシートなどを用いる。 ・教育の情報化と情報教育の関係を理解している ・情報教育の目的を理解している ・学習指導要領における情報モラル教育の必要性を理解している ・情報モラルの指導内容に5つの領域があり、指導すべき内容について知っている ・道徳と情報モラル教育の関連を理解している ・学校や地域全体で取り組む重要性が理解している ・各教科や生徒指導において情報モラルを指導する必要性を理解している			
キーワード	教育の情報化、情報教育、情報モラル教育、「教育の情報化」に関する手引、教員のICT活用指導力			
【小テーマ②】年間指導計画の立案に向けて			3.0H	(担当講師:三村・小崎・伊藤)
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	情報モラル教育・情報安全教育の実践事例を紹介するとともに、既存のデジタルコンテンツについても取り扱う。また、年間指導計画を立案するために、実践的な指導方法について知り、具体的な指導案をグループで考える演習を行なう。			
到達目標・確認指標	先導的教育情報化推進プログラム「教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化」の具体的目標(基準)より抜粋。これらを確認するために、確認テストやワークシートなどを用いる。 ・教科における情報モラルの指導例を紹介できる ・児童生徒の実態を踏まえた指導の重要性を理解している ・児童生徒の実態に応じて、工夫しながら「情報社会に参画する態度」を育成する指導ができる ・情報モラルの指導を盛り込んだ教科指導案を作成できる			
キーワード	情報モラル教育、情報安全教育、教員のICT活用指導力、情報教育			
試験方法	講習後の知識確認テストは、講習内容の知識理解部分を確認する選択式を中心とした問題で実施する。研修テキスト中から、情報教育のねらい、情報モラル教育の意義等から出題する。			
成績評価の方法・基準等	小テーマ1: 確認テスト(30点)、演習活動(20点)で配点します。演習は、次の4段階の評価基準「ワークショップに積極的に参加し、意見や事例を提案するとともに、意見交流で他者の実践アイデアを吸収する姿勢が見られ、まとめ役を担った(20点)」、「ワークショップに積極的に参加し、意見や事例を提案するとともに、意見交流にも参加した(15点)」、「研修テキストや紹介した教材の事例をそのまま提案するが、意見交流やまとめ活動、実践アイデア提案には積極的に参加した(10点)」、「話し合いには受動的な参加だが、学び合う姿勢が見られた(5点)」を目安として講師が評価する。 小テーマ2: 確認テストは、知識理解部分(30点)と、演習で作成した指導案や他のグループが紹介した指導案を要約した指導例提案(20点)で配点する。作成した指導案は、「情報モラル教育のねらいを盛り込んだ指導案が考えられていて、始動時に利用する教材などを具体的に紹介できている(20点)」、「情報モラル教育のねらいを盛り込んだ指導案が考えられている(15点)」、「情報モラル教育のねらいが明瞭でないか、指導学年の実態に沿っていないが、要素が盛り込まれた指導案が考えられている(10点)」、「情報モラル教育の要素が盛り込まれた活動案が考えられている(5点)」を目安として講師が評価する。合計点数で60点以上を合格とする。			
備考	演習中は、運営側から配布される受講者IDを身につけ、講師が確認できるように配慮願います。			